

笠野興産株式会社

ものづくり技術

成長分野型

多様化するニーズに迅速に対応 医薬品事業で設備増強

事業
内容

化学、医薬、食品の3本柱 時代の流れを見極めた事業展開

同社は1933年(昭和8年)に染色助剤、ロート油といった化学品の製造からスタートし、現在では病院向け医薬品、食品など積極的に新事業を展開し、現業の範疇にとどまらず、健康と環境に配慮した製品開発にも注力している。同社事業内容はだまかに化学品事業、医薬品事業、食品事業の3事業に分類される。

化学品事業では、有機合成化学技術、精製技術など化学をベースにした種々の技術を駆使し、原薬、中間体、樹脂原料、食品添加物など幅広い分野に製品を提供している。大手化学メーカーや化学品商社筋に長年納入実績がある。

補助
事業

医薬品バーコード“GS1-128”へ対応 画像処理機を使った検査・排出装置の導入

上記3つの事業領域の中で今回の補助事業に取り組んだのは医薬品事業である。我が国では、社会保障費の抑制を目的に、先発医薬品と治療学的に同等である後発医薬品(ジェネリック医薬品)の使用促進が進められており、国内市場のニーズに対応するべくジェネリック医薬品の使用が増加傾向にある。そのようななか、受注体制を整える意味でも設備面の増強が必要となっていた。

また、厚生労働省は2015年7月以降製造販売業者から出荷される医療用医薬品について、すべての製品の調剤および販売包装単位に医療用バーコードGS1-128の表示を義務付けた。海外製薬メーカーのラベル印字・封緘を行う同社においても対応に迫られた。特にGS1-128コードには、ロット番号や使用期限といった情報が組み込まれているが、印字されているバーコードの内容が正しいかどうかは目視では確認できないため、数字自体の入力間違い

医薬品事業では、日本薬局方収載品を含む医療用医薬品、軟膏、粉体の製造、小分け、医薬部外品の液剤の製造および医療機器の検品、包装などの受託業務を中心に行っている。

食品事業では、健康増進効果が再評価されている納豆の製造を手掛けている。工場は日産50万食を製造可能な大型納豆工場である。

や印字の欠けなどを判別するシステムの構築が急務となった。そこで、今回の補助事業では、GS1-128コードを読み取ることが可能な画像処理機を導入した。

バーコード確認に加えて、数量チェックができる重量チェッカーを導入し、製品管理体制の強化を図った。



▲GS1-128対応画像処理機

笠野興産株式会社

代表取締役社長 笠野 晃
和歌山市井ノ口550-1
TEL:073-477-0277
(資本金)14,000千円 (従業員)255人
URL:http://www.kasano.co.jp/

成果

検査工程の自動化 得意先からの評判は上々

医薬品工場(第1~第3工場)すべての工場の検査工程において自動化が可能となった。今までは目視でのダブルチェックを行っていたが、機械と人のダブルチェックとなることにより精度の高い製造管理体制を構築することができた。また、当初の目的どおり画像処理機を導入することによりGS1-128コードの読取りが可能となったことに加え、重量チェッカーを併設したことで人による検量工程を行う必要がなくなり、作業効率もアップした。

そのほか、検査装置の導入によって製品の流れが以前よりもスムーズになり、作業台上に置かれた製品や資材が散らかることがなくなったため、作業台が簡素化された。ケアレスミスも確実に減少させられる環境が整った。

得意先からも機械と人のダブルチェックとなり、ヒューマ

ンエラーのリスクがさらに低減したことについて高い評価を受けているが、現状に甘んじることなく気を引き締める。



▲画像処理機と自動排出装置の全体画像

今後の
展開

2015年10月から新工場も稼働 新たな機能も加え受注体制の拡充を狙う

ジェネリック医薬品の利用促進の数値目標が国から示されるなか、今後もジェネリック医薬品に関わる包装・物流関連業務はさらに受注が増えていく見通しである。2015年10月には包装関連設備や物流機能を強化した工場を設立した。新工場では、工場周辺環境を考慮した設計を基に設備が導入されている。また、少量多品種に対応できるブリスター充填機を導入し、受注対応力をさらに高めていく。

今後は、品質管理レベルについて出荷判定を行ううえでの試験業務(理化学実験、無菌実験)のレベルアップを行うべく、試験室の増改築、試験機器の新たな導入などの設備投資を計画しており、今後も引き続き高品質な医薬品の製造と安定供給に努めていく。

▲隔離部屋
赤丸は外部への排出用フィルター(HEPA)▲新工場全体図
赤丸はこの度の増設部分(1・2F合計で1,300㎡)